

「ART×LIFE 終わりのなき素材の息吹 中国現代アート作品展」開催 2025 年 7 月 5 日(土)～8 月 3 日(日)

中国各地で活躍する 17 人のアーティストによるミクストメディア作品をご紹介します

日中友好会館は、文化・芸術交流をはじめ、青少年交流、留学生寮や語学学校の運営などの事業を展開する日中両国の民間交流の拠点です。その日中友好会館の文化活動の一環として 1988 年に開館した日中友好会館美術館は、中国の伝統工芸や書画、現代アートなどオリジナリティのある企画展を定期的で開催しています。

当会館美術館では 2025 年 7 月 5 日より、「ART×LIFE 終わりのなき素材の息吹 中国現代アート作品展」を開催いたします。本展では、中国文化芸術発展促進会に所属し、中国各地で活躍する 17 人のアーティストによるミクストメディア作品をご紹介します。絵画、インスタレーション、映像など、複合的な素材と技法を駆使した作品群は、素材の本来の姿や用途を超えて、新たな表現の可能性を切り拓いています。中国現代アートの革新と多様性を体感できる、力強くエネルギーに満ちた作品を通して、素材が語りかける生命力を感じていただければ幸いです。



【展覧会名】ART×LIFE 終わりのなき素材の息吹 中国現代アート作品展

【会 期】2025 年 7 月 5 日(土) ～ 8 月 3 日(日)

【主 催】公益財団法人日中友好会館、中国文化芸術発展促進会

【協 力】御雲文化発展株式会社、日本春秋旅行株式会社、株式会社アジア通信社

【後 援】中華人民共和国駐日本国大使館、文京区、文京区教育委員会、国際交流基金、
中国文化センター、日中友好議員連盟、公益社団法人日本中国友好協会、
日本国際貿易促進協会、一般財団法人日本中国文化交流協会、一般財団法人日中経済協会、
一般社団法人日中協会、一般財団法人日本アジア共同体文化協力機構

【会 場】日中友好会館美術館（東京都文京区後楽 1-5-3）

【開館時間】10:00～17:00 （7/11、18、25、8/1 は 20:00 まで開館）

【休 館 日】月曜日 ※7/21（月祝）は開館、7/22（火）は休館

【入 館 料】 500 円（税込） ※中学生以下無料

【アクセス】・都営大江戸線「飯田橋」C3 出口より徒歩 1 分
・JR 総武線「飯田橋」東口より徒歩 7 分
・地下鉄東西線・有楽町線・南北線「飯田橋」A1 出口より徒歩 7 分

【本展 URL】<https://jcfc-museum.jp/events/event/2025-17>

本展 QR コード



◎展示作品のご紹介



＜晨暉＞ 作者：胡偉 材料：宣紙、鉱物顔料 140x700 cm 2019 年

＜晨暉＞は、長江流域の雄大な山々と、その間にたゆたう朝の光を描いた現代重彩画である。構成においては、伝統的山水画の「起承転結」の法則を踏まえつつ、現代絵画の視覚言語へと昇華されている。筆致は奔放でありながら、要所においては細やかな繊細さを宿し、墨と彩の対立が生む深遠な余韻を残す。これらは伝統と現代、東洋と個の精神性の交錯を鮮やかに示している。水墨の爽快な表現を取り入れつつ、現代的な構成美を強調することで、テーマの深さと視覚的緊張感とを見事に両立させている。



＜花花宇宙シリーズ＞ 作者：王 玉華 材料：リネン布、鉱物顔料、箔 2025 年

80cm × 100cm × 3cm、80cm × 100cm × 3cm、100cm × 80cm × 3cm

人は未完成で、つぼみのような神である。どの瞬間にも花開く可能性がある。誰もが宇宙の中の一輪の花であり、その花の中にすべての存在が現れる。花花宇宙と調和して共存する体験は、論理的な頭脳から新鮮な現在へと跳躍する。実際には何もする必要はなく、一度の爆発であなた自身の内面が花開き、ありのままに記録される。



＜二〇一九年の記憶＞ 作者:顔 鴻 2019 年
材料:麻布、アクリル
210cm×140cm×4cm

老いた軍馬の前軀が、浮彫のごとく暗灰色の混沌から姿を現す。無造作に走る線は、風雪に耐えた馬の身に刻まれた亀裂を描き出し、粗野な質感の中にも雄々しい美を浮かび上がらせる。刃物で削られたような痕跡は、戦火に踏み荒らされた大地を思わせ、さまざまな粒状の素材を盛り重ねて造形された体躯は、青銅器のような重みを宿す。時間に封じられた精神が、黒白灰の荒野にあってなお、誇り高く立ち続けている。



＜呼吸＞ 作者:林 向軍 材料:天然漆、繊維、宣紙、金箔、鉱物顔料、アクリル
200cm×50cm×20cm 2024 年

「魚」の形象を借りた＜呼吸＞シリーズは、大漆と鉱物の粉を幾重にも塗り重ね、洗い流し、彫り込み、滴らせ、堆積させることで、深海に眠る魚たちの静けさと力強さを表している。物質の洗礼を受けた魚体は、時間の記憶をまといながら、過去を想い起こさせる。抑制された色彩と独特の質感が、東方美学の奥ゆかしさを湛えながら、現代における文明の歩みを静かに語りかける。



＜時の旅＞ 作者:秦 仁強
材料:繊維、天然鉱物・土・植物顔料
120cm×220cm 2022 年

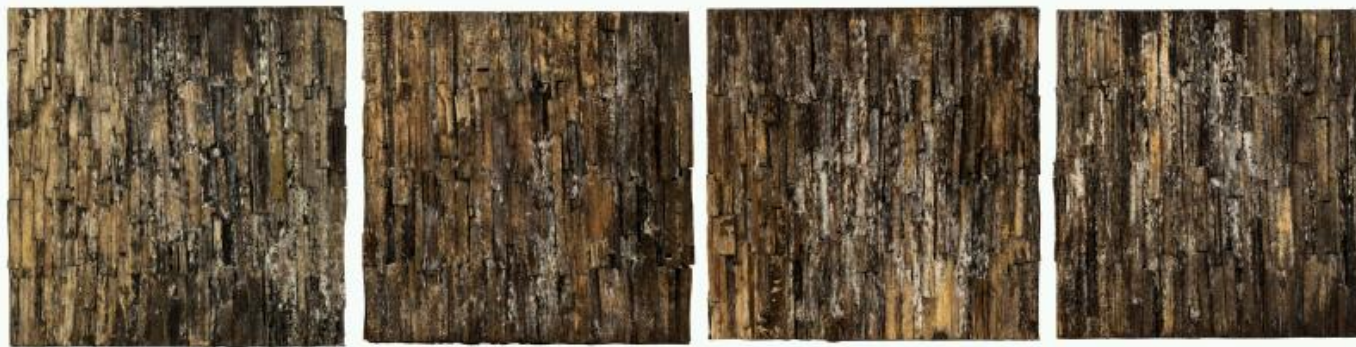
時は知らぬ間に流れ、平凡な日々の中で、無数の物や人の思いが混ざり合い、曖昧に溶け込んでいく。これこそが「時間」というものの姿、あるいはその状態なのかもしれない。生活とは立体的であり、単なるイメージの重複や繰り返して構成されるものではない。時間とは、抽象的でありながら同時に具体的で、知覚できそうで捉えきれない存在だ。私の作品は常に、その「知らぬ間に存在する時間の力」を、抽象的な画面を通して表現しようと試みてきた。曖昧でありながら確かで、見えぬようでありながら輪郭と質感をはっきりと持つその力を。



<光> 作者:呉 震 200cm×200cm×10cm 2022 年

材料:木構造、宣紙、皮紙、植物粉末、天然鉱物・土・植物顔料、アクリル

「河図洛書、聖人則之」——『易経・繫辞』より。伏羲が黄河と洛水から授かったとされる神図をもとに、古代の賢人たちは自然の法則を読み解き、天文・地理・生業の知を記した。作品はこの自然との共生思想を、芸術的な視点から解き明かす。『論語』や『孟子』などの古典を円環状に配置し、その中心に中薬・紅花を敷くことで、古色蒼然たる美と精神性を融合させた。素材そのものの香りや色彩が、作品の深意をさらに高めている。



<読まれる物体> 作者:劉 元 100cm × 400cm × 10cm 2019 年

材料:宣紙、皮紙、天然鉱物・土質・植物顔料

作品は「素材」と「形式」の関係に注目する。作者にとって、「素材」は世界を理解するものではない。人間の経験は「素材」の感知だけでなく、世界との関係、他者との相互作用、生活の情景を通じて意味を構築する。「形式」は人間が世界を理解する上でより重要であり、「形式」は私たちが世界の中で自分の位置を見つけ、世界と相互作用し、これらの中で物事の意味を発見する方法として役立つ。

◎関連イベント

中国舞踊公演



【日 時】7 月 13 日(日) 15:00～16:00
【会 場】日中友好会館 地下 1 階 大ホール(東京都文京区後楽1-5-3)
【出 演】東京華舞舞踊学校
【席 数】150 人(自由席)
【観覧料】無料 ※事前申込制 (QR コードより申込)
※イベントの詳細は、当美術館HPにてご確認ください。
※開演 30 分前より入場開始となります。



<中国舞踊公演申込QRコード>

本展に関するお問合せは下記までご連絡下さい

◆公益財団法人日中友好会館 文化事業部 (担当:堀口)

E-mail: bunka@jcf.or.jp

住所: 東京都文京区後楽 1-5-3 TEL: 03-3815-5085

URL: <https://jcfcmuseum.jp/>



美術館 X (旧 Twitter)



美術館公式HP

広報用素材は下記 URL よりダウンロードしてください。

<https://xgf.nu/xLpiT>

